

様式2 令和6年度 清瀬市立清瀬第三中学校 学校評価						
学校教育目標		人間尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。1. 思いやりのある生徒・思考力 2. 自主性のある生徒・行動力 3. 協力する生徒・人間力		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動		
目指す学校像(ビジョン)		1「誰一人取り残さない学校」を目指し、不登校対策室(ステップルーム)、サポートルーム等の特別支援教育を充実させるとともに、一人一台端末を活用した個に応じ指導の充実を目指す。 2「考える力」の育成を目指し、授業規律や授業スタンダード等について研修を重ねる。また、学校図書館を活用した学習情報センタイーとしての機能を充実させ、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。また、市民ボランティア等の協力を仰ぎ、生徒の学校生活の充実を図る。 3安全、安心、安定して学べる学校作りのため、心得「あ(挨拶)・じ(時間)・み(身だしなみ)・こ(言葉遣い)・し(姿勢)」を教育活動の基盤とし、生徒会活動が主体的に自治活動を取り組み、「一人一人が輝く三中」を目指す。保護者や地域を巻き込んだ取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通して視野を広げさせ、他と共に学ぶことのよさを体感させる。				
【目指す学校像】		生徒、教職員共に互いを認め合い、安心・安全に生活でき笑顔で気持ちよく挨拶ができる学				
【目指す児童・生徒像】		思いやりのある生徒、自主性のある生徒、協力する生徒				
【目指す教師像】		確かな学力を身に付けさせる教師、生徒から目標とされる教師、自己研鑽に励む教師				
前年度までの学校経営上の成果と課題						
<成果>昨年度は、新型コロナウイルスの五類となり、授業や学校行事等の教育活動が制限なく実施できた。特に、運動会や合唱コンクール、宿泊行事等の体験的活動で達成感、成就感を味わうことができ、自己肯定感、自己有用感を高めることができた。また、知的特別支援学級の開設に伴い、別支援教育の充実のため、校内研修、校内委員会を実施し、個々の教育的ニーズにあった支援方法を深めることができた。 <課題>落ち着いた学校生活や授業規律に課題があり、基礎学力の定着へと結びついていない現状がある。また、ICTを活用した個に応じた指導や家庭学習の定着、学校図書館を活用した授業や取り組みが不十分であり、生徒一人一人のよさや能力を伸ばす教育に取り組んでいるが保護者への理解も含め課題がある。						
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	・教科の特性に応じたICT機器の活用。 ・長期休業中、放課後、定期考査前の補習学習の実施。	4	2	「あじみこし」をもとに規律ある授業を意識した授業を進めているが、徹底できていないことも現実である。長期休業中、定期考査前の補充学習は、実施しているが学力向上につながっていると判断できない。特に、タブレット端末を活用した授業展開が十分でないため、来年度の研修課題とする。	・板書の授業が多い。 ・小学校の時にタブレ・教師の板書と説明を中心とした授業スタイルが多い。 ・小学校段階でタブレット使用に関する基本的な技能を習得していることから、中学校ではさらなる有効活用を期待する。小中接続したスキル向上を目的に、小中で交流等をしなが、活用方法の改善を図っていただきたい。ツットの使い方を覚えてきているから、中学校でももっと活用して欲しい。小中でそんな活用をしているか交流をしていってもっと活用方法の工夫が必要。	・一斉画一的な授業(単線型)スタイルから複線型の授業スタイルへと授業の質的転換を進めていく。(研修部が主体となった教職員研修の充実) ・9年間を見据えたタブレット端末活用(スキル表の「可視化」)を進めていく。
	・校内研修により「授業スタンダード」の定着。 ・図書館推進委員、図書館支援員を中心に読書活動の推進を進める。	4	4	授業スタンダードを定着させるために、校内研修で取り組み、「考えさせる」授業について研究授業等を実施した。授業改善には至っていないが、意識向上につながった。さらに、図書館推進も移動図書館を設置するなど、本に触れあう機会を増やしたが、貸出数増加には至っていない。	・子どもの読書離れが進んでいる現状の中で、保護者や地域の方々が子どもの頃に親しんでいた本などを紹介するなどの工夫が必要である。 ・授業でも図書館をさらに活用することで、活字に触れ、読書の習慣化を図る機会とすることが期待できる。	・読書に対する意識高揚を図るため、生徒が主体となった啓蒙活動(委員会活動)を確立させ、地域の方々にも協力を仰ぎながら、読書活動の推進を図っていく。また、教職員の意識改革を進め、デジタルとのバランスをとれた教育のあり方を模索していく。
豊かな心の育成	・「考え、議論する道徳」の実施。 ・各教科の中で人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識を向上させる。	4	4	生命尊重を授業を計画的に実施し、学年で授業ローテーションを図るなど、考え、議論する授業の質を高めることはできた。また、総合的な学習の時間として、講演会等の様々なゲストティーチャーを派遣し自他を尊重する意識を高めることができた。	・学習者が主体となった授業構築に向け、生徒の思考を深める場面を意図的に設けるなどの工夫が必要である。 ・教師中心で進めている道徳授業が多いことから、生徒自身が「考え・議論する道徳」の充実を図ることが大切である。 ・家庭における教育力も必要である。	・教育課程の評価・改善を図りながら内容項目をバランスよく組み入れていく。また、本校の重点項目については、特に生徒の思考力・表現力を大切にしたい道徳授業を展開し、着実に道徳心が育まれるようにする。 ・家庭への啓蒙活動に積極的に取り組み、学校と家庭の連携を強化する。
	・年間6回のふれあいアンケートの実施により教育相談を充実させ、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・アセスの活用した人間力の育成を図る。	4	4	ふれあいアンケートを年間6回の実施、それに伴う教育相談を行うことで、いじめの未然防止につながった。しかし、様々な問題行動等が起き、基本的な生活習慣の見直し、「あじみこし」の強化、実施方法の改善が必要である。	・アンケートを積極的に実施しながら生徒理解に努め、実態の応じたサポートを実施していることは評価できる。 ・生徒の「問題行動防止」に向け、学校や家庭・地域が一体となって取り組むべきである。	・アンケート等を活用したエビデンスに基づく生徒理解・生徒指導にと取り組む。生徒指導提要を全教員に浸透させ、「生徒に寄り添い」生徒が「自己決定する」場を設けることで生徒の自己有用感を高めていく。また、心理的安全性が担保されるよう、学級づくりにも力を注いでいく。
健やかな体の育成	・保健体育の授業での30分間水泳、12分間持久走。 ・準備運動の工夫による体力向上。	3	4	30分水泳を実施でき、12分完走においては、タイム等を掲示し目標距離の設定や個々にあった意識、体力向上につながった。また、筋力トレーニングだけでなく、柔軟を意識した準備体操を取り入れ、全国体力テストの課題の改善に努められた。	・生徒の実態に応じた工夫を施しながら、体力向上に向けて、今後も引き続き努めていただきたい。	・継続した取組を重視し、家庭の協力も得ながら、体を動かす機会を増やしていく。また、自己の日常生活を振り返る場面を設定し、個々の課題に応じた主体的実践を促していく。 ・水泳指導において民間施設を有効活用した体力向上に努める。
	・毎月、保健だよりを発行し、健康について啓発する。 ・委員会活動(昼の放送、食育講話)で食育教育の充実を図る。	4	4	保健、給食だよりの発行、保健給食委員会、放送委員会の活動等を通して、食育や健康管理への関心が高められた。	・毎月、お便り等で発信していただいるおかげで、食育や委員会活動の様子を知ることができている。ぜひ、今後も継続していただきたい。	・今後もさらなる内容の充実に向けて取り組み、本校の健康・安全指導や食育への理解促進に努めていく。 ・食物アレルギーに関する危機管理体制を強化していく。
特別支援教育の充実	・特別支援校内委員会を充実させ、UDの視点を取り入れた個に応じた指導・支援を行う。	4	4	毎月の特別支援委員会で個に応じた指導、支援方法や見守り等について協議することできた。さらに、全職員で共有し、各教科、学級活動等で実践することが課題である。	・特別支援学級に在籍する生徒は明るくて雰囲気も良く、充実した教育活動が行われて様子が伺える。 ・学校説明会では、生徒の特性に応じた教育を受けたいという声が多数聞かれた。	・教育活動全体を通して、UDの視点を取り入れた環境改善に尽力していく。 ・生徒一人一人の特性や多様性に配慮した指導・支援を実施していく。(心理的・物理的な障壁を取り除く)
	・特別支援教育推進委員会を中心に登校しぶりの早期発見と対応についてステップルームを活用し、教室復帰を目標とした個別支援を行う。	4	4	不登校対策について、未然防止、早期発見につなげるために毎月の特別支援委員会で、リストを作成し協議している。また、ステップルームの支援員の増加により支援、見守り体制が充実している、支援員等の活用方法が課題となる。	・ステップルームが効果的に活用されており、個別での支援体制(見守り)が充実している。	・「居場所づくり」(居心地の良い空間)の充実に努め、誰もが安心して通える学校づくりに傾注する。 ・支援員等の有効活用を再度吟味し、協働体制の構築を図っていく。
本校の特色	・きよせらボよる命の講話 ・清瀬空手道連盟から講師派遣による授業 ・地域のイベント、お祭り、青少協行事へのボランティア参加。	4	4	地域とのつながりを意識した、講師、ゲストティーチャーを派遣し、授業等で講演、指導を実施している。また、地域の行事活動にボランティア、ゲストとして参加しているが、生徒全体の地域への参加意識は、高くない。	・地域との繋がりを強めた取組が行われ、学校への理解促進に寄与している。 ・夏のボランティア活動等、生徒が地域行事に積極的に参加する姿を大変嬉しく思う。	・地域との連携を強く「地域とともにある学校」の実現を図る。 ・ボランティア活動を通して、生徒に対して他者理解・自己有用感を醸成していく。社会参画意識のさらなる高揚に努める。 ・地域の人材活用に努め、CSを推進させる。
	・学校ホームページ更新と閲覧状況の確認。 ・学校行事、学校便り、学年・学級便り等のHome&Schoolの活用による情報発信の強化。	4	4	学校、学年、学級便り、その他の発行物は、Home&Schoolで配信し、ペーパーレス、働き方改革につながっている。また、学年行事等も配信している。よって、情報発信は適切に実施できているが、閲覧数やアンケート調査の実施率等は低迷している。	・ホームページ更新頻度の増加や掲載内容の充実に努めているので、学校の様子をよく知ることができる。 ・ホームアンドスクールを活用した「お便り」「行事の写真」の配信は、大変有効である。	・今後も継続して取り組み、本校の教育活動情報を発信し、理解促進に努める。